



War Cry

7月号

福音版
2025
July
No.2890

二〇二五年 七月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

GOOD NEWS とぎのこえ



つながり、 支えられて歩む

冠野 由紀子

先日、足が痛くて整骨院に行った時のことです。問診票に症状や痛くなった時の状況などを書いていくのですが、正確に思い出せないことも多く、普段は自分の体についてあまり意識していないものだなあ、と反省しました。そして、これは心についても同じなのではないかと、ふと思ったのです。忙しい日々の中で自分自身とじっくり向き合う時間がなくて自分のありようを正確につかめないまま、いつの間にか傷ついている。皆さんもそんなことはないでしょうか。

しばらくの間、治療に通うことになり、自身を振り返る時間をもつことができました。その中で思い至ったことが二つあります。一つは「つながる」ということについてです。意外なことに、足の痛みは足そのものではなく腰が原因だったのですが、体の各部分が確かにつながっていることを改めて感じさせられたのです。

聖書には次のようなイエス・キリストの言葉があります。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつな

っており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」(ヨハネによる福音書15章5節)

幹につながっていない枝は枯れて捨てられてしまいますが、しっかりと幹につながっていれば、枝が幹から遠く離れた所まで伸びていても十分に養われて豊かな実を結ぶことができます。イエス・キリストこそしっかりとしたぶどうの木であり、私たちを養ってくださるお方です。

そうして私たちが結ぶ実とは次のようなものです。

「霊の結ぶ実とは愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」(ガラテヤの信徒への手紙5章22、23節)

最近、「つながる」ことを求めている人が多いように思います。通信手段の発達やSNSの普及で、多くの人とつながることが簡単にできるようになりました。しかし、「つながること」そのものよりも「何とつながっているか」が大切なのではないでしょうか。

もう一つは「支える」ということについてです。腰に力を入れて歩くと不思議と痛みが和らぐように感じ

たのですが、腰は身体を支える土台だからと聞いて合点がきました。

「わたしのこれらの言葉をおこなう者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」(マタイによる福音書7章24、27節)

これもキリストの言葉です。ここでは「何を土台とするか」が重要になっています。私たちは聖書を通して語られる言葉に従うことでしっかりと支えられ、揺らぐことなく人生の歩みを進めていけるのです。

さて、今、皆さんはどのような毎日の歩みを進めていらっしゃるでしょうか。キリストとつながり、信仰を土台としてしっかりと支えられながら歩んでいかれますよう、心よりお祈り申し上げます。

(渋谷小隊(教会 所属))

さまざまな伏線を経て 神様のもとへ

小林 正和 さん
(救世軍江東小隊所属)



東京・神田神保町の救世軍本営（本部）前にあるゴスペルハウス



「信仰は、聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」と聖書にあります。さまざまな人生経験を経て、救世軍の小隊へ通うようになり、聖書の学びを通して、キリストに従う生き方に導かれた小林さんの証言^{あかし}をお聞きました。

これまでの歩み

二〇二四年七月七日の日曜日、江東小隊（教会にあたる）にて兵士入隊（正式に救世軍の信徒となること）をさせていただきました。江東小隊に通うようになって二年五カ月でした。

生まれは京都ですが、いくらも住んでいたわけではありません。父が公務員で二年に一度引越するような環境で育ちました。父はバッハの宗教音楽のレコードを四六時中聞いていた人で、もしかしたらキリスト教の内容について興味があつたのかもしれませんが。

個人的なキリスト教との触れ合いは、大学生時代の一九七〇年に始まります。韓国へ旅行して二週間滞在しましたが、すべて教会に泊めていただいていた。現地での出会ったキリスト教会の牧師さんのご厚意で泊めていただいたのです。五十年

も前の話です。韓国や日本の社会情勢はいろいろなことについて牧師さんと対話をする機会を得ました。

けれどその後は、社会人となつてすぐに結婚、家庭生活が始まり、教会の存在は忘れてしまいました。五十歳の時、仕事で韓国とのつながりがまた、やつてきました。韓国語の勉強、年二回の渡韓が再開し、四半世紀ほどが過ぎました。韓国を訪ねると、至る所で教会を目にします。クリスチヤンの人口も多く、日本との違いを感じるとともに、学ぶところはたくさんあるなと思っています。

仕事は貿易関係で、航空貨物の輸出の営業をしていました。お客様と税関、航空会社との間に立って、待ったなしの判断を迫られ、機転を利かせて即座に対応することが求められる職場で四十年働いてきました。他者の思いをくんで働くこと、サービスということとは

当然の業務でしたので、今教会で奉仕することも全く苦にはなりません。掃除したり、集会の後の片づけをしたり、そういうことが好きなんです。

ゴスペルハウス

クリスチャンへの道のりを歩み始める道筋は徐々にできあがっていったと思います。でも積極的にその気にはなっていないでした。

性格的にすぐ、回り道を癖があります。英国が好きで、四百冊ほどの本を読み、今も続いています。今はネットの時代になっていますが、時間があれば神田の古書店街へ行き、何か出物はないかとさぐりを入れています。神田神保町へ行く度、救世軍本営（本部）の建物があることは認識していました。目にしているだけで数年が経ちましたが、いつか、本営の前にあるゴスペルハウスを訪ねてみたいという思いは心の中に芽生えていました。

と問われ、強い印象を受けたことを覚えています。それから月に二回ほどゴスペルハウスに通い、その方からいろいろ知識、内容をご指導いただき、一年ほどして、住まいとの関係で江東小隊を紹介していただきました。

「どうして救世軍を選択されたのですか？」とよく聞かれます。これは中学生の時の経験にさかのぼります。松山市の中学校で、私の中学一年の時の担任が音楽の先生でした。その学校がその年の吹奏楽コンクールで優勝したのです。その年は二十五人編成のBクラスで参加していたのが、翌年から四十人編成でAクラスに参加するということで、皆吹奏楽に興味をもったのです。それで、月一回発行される『バンドジャーナル』という吹奏楽の雑誌を学校でとって、それを読んで皆でワイワイと話をしていました。その記事に救世軍が出てきていたのです。

私は高校受験のため、中学ではクラブには入りませんでした。高校入学後に吹奏楽クラブに入り、一年次はベース、二年次よりト

ロンボーンを担当しました。大学でもトロンボーンを担当しましたが、ここで挫折、吹奏楽の世界から離れました。時の経過は本当に早いのですが、中学の時点で救世軍のブラスバンドについては知っていました。この伏線が、最終的に導かれていくことになった要因と考えています。

聖書の学びを通して

小隊へ通い始め、通い続けるというのは、難しいことはないように思えますが、



小隊バンドの一員として



兵士入隊式で

やらなければならぬことが多く出てきます。戸惑います。ふと、これで良いのかとの考えも頭をよぎりました。ほどなくして、「麻布ニューホープ」という救世軍の拠点で、初級者用の聖書の学びの講座が開始されるので、来てみてはいかがですか」と声をかけられ、ノコノコ出かけていきました。毎週テーマが決められ、必要な事項の説明、解釈を受けて、一時間半ほど勉強させていただきました。ゲスト・スピーカーとして士官（伝道者）の方々が来られ、わ



小隊の仲間と共に

かりやすく講義が展開されていきました。二年半弱この講座は続き、毎週通いました。普通のカルチャーセンターでの学びとは一味違いますので、それがまた良くなってきて、通い続けました。現在は、渋谷小隊を会場としたニューホープコミュニティセンターでの聖書の学びに、続けて参加させていただいています。

毎回の勉強はそれほど頭に入っているのではなかったかと思いますが、二年半ほどの継続はそれなりに価値が生まれたように思っています。聖書に対する重圧感から解放され、身近な大切な心の支えになってきているように思います。

を体験しています。

ゴスペルハウスへ行くまで数年を要しましたが、救世軍に入りたという思いは小隊に初めて訪ねて行った時からありました。しかし、兵士になるための心がけはだんだんとできてきていましたが、なかなか進展せずにはいました。二年ほど経ったある日、「そろそろどうか」という声をかけていただいて、兵士になるための学びが始まりました。三カ月間、基本的に毎週学びの時をもって、二〇二四年七月七日に兵士入隊に至りました。

なにごと高年齢者ですので、もう一回り若かったらと思うことはありますが、信仰というのは時間を要することでもあるなと思います。

早くスタートしていればよかったと思うこともありましたが、人間というのは愚かなもので、その頃には気づかないでいたのでしょう。

これから夢

明日のことはわからない年齢でもあります。可能であれば、海外に行く機会も多いので、韓国へ行く時

には、滞在先の町の救世軍の小隊の聖別会に出席させていただきますかと思っています。また、毎年元旦におこなわれるアメリカ・カリフォルニア州パサデナ市のローズ・パレードにはぜひ出かけたいと思います。現地の救世軍のバンドやタンバリン隊など総勢二百名ほどがパレードに参加されますので、勇壮なことでしょう。また、ニューヨークの小隊へも行きたいと思っています。聖別会に出席するとともに、現地でしか手に入らない楽器の購入もできればと思っています。英国ロンドンへも行き、ロンドンの小隊への参加、そしてインターナショナル・スタッフ・バンドの皆さんにも会えればと思っています。

小隊では、バンドの練習生として毎週メンバーの皆様から指導を受け、練習に励んでいます。昨年四月から毎週水曜日にバンドの練習をしています。孫の年代である二十代の若い人たちと、バンド練習でも会い、聖書の学びでも会い、日曜日にも会うというようなことで、このような人とのつながりを感じています。

また、江東小隊は海外の方が訪ねて来られる機会も多いので、出会いを通して広い世界へ目を向けることができ学ばせていただけるのも感謝なことです。

聖書の学びを通して心に残っているのは、次の御言葉です。

「イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」（マタイによる福音書22章37〜40節）

また、テサロニケの信徒への手紙一 五章一二〜二二節で、特に一六節の「いつも喜んでいなさい」という言葉です。これらの御言葉を心に留め、これからもよく考えていきたいと思っています。

ここまでの道のりに関わってくださった皆様、そして神様に感謝いたします。
Praise the Lord!（主を賛美せよ！）



世界をみつめて

〈パプアニューギニア〉「国際勇気ある女性賞」の受賞

パプアニューギニアの救世軍士官(伝道者)、ヴェレナ・イガ少佐は、米國務省による 2025 年の「国際勇気ある女性賞」を授与された 8 人の女性のうちの一人です。

イガ少佐は、パプアニューギニアにおける現代奴隷制及び人身取引への対応に関する救世軍の担当者として中心的な役割を担っています。啓発活動、研修、実際のケースマネジメントなどをおこない、カウンセラーとして、また、リーダーとして信頼されています。



4月、ワシントンでの受賞式

す。カウンセリング・ホットラインの設置など、被害者にとって不可欠な支援サービスを提供し、その努力は、パプアニューギニアの法的・社会的枠組みに根本的な変化をもたらしています。

受賞を受け、イガ少佐は「大変光栄です。これからもパプアニューギニアの女性と子どもたちのために正しいことをするという情熱と愛をもって、正義のために闘い続けます」と述べました。

〈万国本営〉新教皇就任に際して

5 月 18 日(日)、イタリア及びギリシャの救世軍のリーダーであるモーガン大佐補夫妻は、救世軍万国総督リンドン・バッキンガム大將の代理として、サン・ピエトロ広場でレオ 14 世教皇の就任式ミサに出席しました。翌日、夫妻はバチカンのクレメンティヌ・ホールで他の教会の代表者と共に、新教皇と面会しました。モーガン大佐補は「レオ 14 世教皇は、福音と社会正義に引き続き重点を置き、貧困に苦し

む人々や社会から疎外された人々を励ましておられると確信しています。これは救世軍の使命と一致しており、私たちはローマ・カトリック教会との継続的なエキュメニカルな関係を期待しています」と述べました。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面)



左の QR コードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます！ 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください！

世界の救世軍の指導者

リンドン・バッキンガム大將 及び
ブロンウィン・バッキンガム中將
今秋来日

11/22(土)午後2時

バンドレイジング・チャリティー・コンサート

於：東京都中央区 日本橋公会堂

11/23(日)午前10時

大会聖別会(礼拝)

於：東京都千代田区 日本教育会館9階

(ご案内)



救世軍とは？ 7 月 2 日 救世軍創立記念日

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、プロテスタントのキリスト教会です。救世軍が産声を上げたのは 1865 年 7 月 2 日のこと。その夜、東ロンドンのスラム街に、ウィリアム・ブースという一人の牧師が立っていました。彼がそこで見たのは、アルコール度の強いジンに酔いつぶれた多くの貧しい人たちでした。ブースは感じました。彼らのために働くように神が自分を呼んでいる、と。

ブースと仲間たちが始めた救世軍は、「軍隊流」の仕組みを採りながら、聖書のメッセージを情熱的かつ誰でもわかるように単純に説き、袖をまくり上げて、食事と石鹸と救済を貧しい人たちに提供するムーブメントになりました。

このムーブメントは最初の 20 年間で急速に世界中に広がり、カナダやニュージーランドでは、わずか一年でそれぞれ 200 以上の小隊(教会にあたる)が誕生しました。人生でどんなに失敗した人でも、イエス・キリストの十字架と復活を信じるなら、すべての罪が赦され、生まれ変わって、新しく人生をやり直せる。そのメッセージを聞いて回心した人たちは、生き方を改め、救世軍の制服を着て路傍伝道に立ち、

「自分は救われた！」と証しました。それを見た人たちが、さらにまた救われていきました。彼らは「救世軍人」と呼ばれました。

救世軍人たちは、ブースの著書『最暗黒の英国とその出路』に示されたビジョンに従って、社会福祉、医療、教育、災害支援、人身取引被害者支援などの働きを世界各地で立ち上げました。山室軍平もその一人です。彼は明治の日本で、吉原にとらわれている娼妓たちの自由廃業を手助けするため、仲間と共に『ときのこえ』を携えて飛び込んでいきました。怒った楼主の手下たちによって暴行されましたが、それでもめげずに、娼妓の救済に奔走したのです。

それから 160 年。いま世界で、救世軍の小隊は 14,000 カ所以上、福祉・医療・教育の事業は 15,000 カ所になります。年月を経ても、救世軍の土台は変わりません。

「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(聖書 コリントの信徒への手紙二 5 章 17 節)

このメッセージを必要とする人が 2025 年にも大勢いる、と救世軍人たちは信じ、働きを進めています。



ウィリアム・ブース



山室軍平

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版 / 毎月 1 日、広報版 / 奇数月 15 日

定 価 福音版 / 1 部 40 円、広報版 / 1 部 100 円

(税込) クリスマス特集号(12 月 1 日号) / 1 部 100 円

振 替 00180 - 5 - 4400

発行兼 救 世 軍

印刷人 代表者 スティーブン・モーリス

編集人 山谷 真

発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17

電話 03-3237-0881(代表)

Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org

印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。